



平成19年8月吉日

関係各位

### 第3回長寿医療センター国際シンポジウムのご案内

国立長寿医療センターでは、明るく活力ある長寿社会を推進するために、長寿医療分野の研究者並びに有識者を招聘し、「健康と長寿」に関する国際シンポジウムを一昨年より主催しております。

今年の第3回シンポジウムは、(財)長寿科学振興財団と共催で、「老化に関する疫学研究」というテーマを取り上げ、老化および老年病に関する縦断的研究の成果について議論します。

業務ご多端な折、誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせのうえ関係者多数のご参加を賜りますよう、ご案内申し上げます。

参加ご希望の方は、別添の参加申込書により、事前にFAXにてお申し込みください。  
申し込み締め切りは、平成19年10月19日(金)です。

開催日:2007年11月15日(木)10:00~16:00

会場:あいち健康プラザ 1階ヘルスサイエンスシアター

〒470-2101 愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1-1 TEL:0562-46-2311

(<http://www.ahv.pref.aichi.jp/>)

主催:国立長寿医療センター

共催:(財)長寿科学振興財団

参加費:無料(定員240名)

#### お問い合わせ:

国立長寿医療センター

国際シンポジウム実行委員会

事務局 政策医療企画課

〒474-8511 愛知県大府市森岡町源吾36-3

TEL:0562-46-2311(内線2505) FAX:0562-48-2373



### Session I: Longitudinal Epidemiological Studies on Aging

– Methodological Aspects

"Past, present, and future of the BLSA"

E. Jeffrey Metter (NIA, USA)

"Physical activity and the incidence of chronic disease in the elderly:  
Findings from the Honolulu Heart Program and the Honolulu-Asia Aging Study"

Robert D. Abbott (University of Virginia, USA)

### Session II: Epidemiological Studies on Aging at the National Institute in the USA and Japan

"The double-edged sword of adiposity and sarcopenia in chronic disease and disability:  
The Health, Aging, and Body Composition Study"

Tamara B. Harris (NIA, USA)

"Comprehensive studies on aging in a community-living population"

Hiroshi Shimokata (NILS / NCGG, Japan)

### Session III: Cohort Studies on Gerontology

"Secular changes of physical function among the community-elderly from TMIG-LISA."

Takao Suzuki (Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Japan)

"The effects of community-based geriatric intervention in Kahoku, Japan  
Kahoku Longitudinal Aging Study (KLAS)"

Kozo Matsubayashi (Kyoto University, Japan)



# "Epidemiological Studies on Aging"

The 3rd International Symposium on  
Geriatrics and Gerontology

November 15<sup>th</sup>, 2007

10:00-16:30

Health Science Theater,  
Aichi Health Plaza

National Center for Geriatrics and Gerontology

## 「老化に関する疫学研究」

第3回長寿医療センター国際シンポジウム

2007年11月15日(木) 10:00~16:30

あいち健康プラザ ヘルスサイエンスシアター

URL: <http://www.ahv.pref.aichi.jp/>

■お申込み・お問合せ

国立長寿医療センター政策医療企画課

〒474-8511 愛知県大府市森岡町源吾36-3


TEL: 0562-46-2311 (内線2505)

FAX: 0562-48-2373

URL: <http://www.ncgg.go.jp/>

申込締切  
平成19年  
10月19日(金)

参加費無料  
定員240名

主催:  国立長寿医療センター

共催: (財)長寿科学振興財団

後援: 日本疫学会、社団法人日本老年医学会、日本基礎老化学会、日本老年社会学会、日本応用老年学会、日本抗加齢医学会、日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本健康支援学会、名古屋大学、名古屋市立大学、藤田保健衛生大学、愛知医科大学、愛知学院大学歯学部、日本医師会、愛知県医師会、愛知県、大府市、知多郡東浦町、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社名古屋支社、NHK名古屋放送局、中部日本放送、東海テレビ放送、東海ラジオ放送、メ〜テレ、中京テレビ放送(株)、テレビ愛知、RADIO-i79.5FM(順不同)





### 第3回長寿医療センター国際シンポジウム開催される

第3回長寿医療センター国際シンポジウム「老化に関する疫学研究」が、2007年11月15日（木）にあいち健康プラザ・ヘルスサイエンスシアターにおいて開催され、145名の参加者を得て無事終了した。



<案内看板>



<会場内の様子>

開会にあたり、国立長寿医療センター大島伸一総長が挨拶に立ち、シンポジウムに参加された皆さんへの歓迎の意と長寿科学における当センターの役割が述べられた。引き続き長寿科学振興財団小林秀資理事長が挨拶され、長寿医療の直面している課題への臨床側からの取り組み等が紹介された。

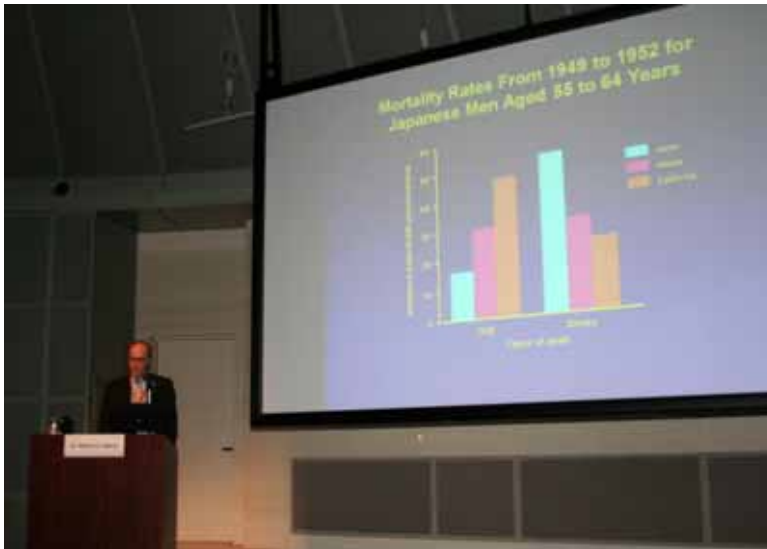


<大島伸一総長挨拶>



<小林秀資理事長挨拶>

シンポジウムのテーマは、これまで「アルツハイマー病治療薬の開発」、「ホルモン、老化と骨」が取り上げられてきた。今回のテーマは「老化に関する疫学研究」であり、長寿科学に関連する疫学分野の研究者を迎えて、老化および老年病に関する縦断疫学研究の成果を中心に議論が行われた。第1セッションは「老化に関する縦断研究 - 方法論」と題



< Robert D Abbott 教授講演 >

され、講演はバージニア大学(米国)の Robert D Abbott 教授からスタートした。Abbott 教授は、約 8000 人の日系人を対象とした 40 年も続く Honolulu Heart Program、また 1991 年に始まった Honolulu-Asia Aging Study について調査のプロトコルの紹介や 12 年以上の追跡調査から得られた成果として、身体活動、中でも日常の歩行距離の多いこ

とが、総死亡率やがん死亡率を下げるだけでなく、心臓病、認知症、パーキンソン病などの疾患のリスクを下げる効果のあることを示し、参加者の興味を引いていた。

第 2 セッションは、米国と日本の国立研究機関における老化に関する疫学研究を中心に議論された。米国からは、国立老化研究所 (NIH) の Tamara B Harris 上級研究員から NIH の長年にわたる研究や近年行われているアイスランドにおける疫学調査の成果が紹介された。Harris 研究員は身体組成の専門家であり、CT スキャンにより大腿部を構成する各筋肉の横断面積を測定してその加齢変化を比較した結果や Muscle attenuation いわゆる筋の霜降り状態を定量した結果について画像もふんだんに取り入れて発表された。日本の国立研究機関からの報告としては、当センター研究所下方浩史部長が約 2300 名の中高年者を対象とした追跡研究「国立長寿医療センター研究所・老化に関する長期縦断研究 (NILS-LSA)」のデータから、認知機能に対する遺伝子の関与や後天的要因として余暇の過ごし方あるいはドコサヘキサエン酸 (DHA) や大豆イソフラボンといった栄養素の摂取が関わること、また骨粗鬆症の発生リスクに対する遺伝および生活背景要因の影響についての包括的な研究の成果を紹介した。

第 3 セッションは、老年学におけるコホート研究をテーマに日本や東南アジアの高齢者を対象とした疫学研究の成果が紹介された。東京都老人総合研究所鈴木隆雄副研究所長からは、地域在住高齢者における身体機能の経年変化について「中年からの老化予防・総合的長期追跡研究 (TMIG-LISA)」の 10 年におよぶ研究成果が発表された。高齢者の握力や歩行速度などの身体機能は保たれており、高齢者が単に長生きになっているだけでなく活気に溢れていることがわかった。京都大学東南アジア研究センター松林公蔵教授は、高知県香北町における老年医学的な介入研究の成果から高齢者の ADL や QOL の追跡的な評価や長年先生が東南アジアの様々な国で行われてきた調査の成果が示された。香北町でのスタディでは、住民への健康教育で医療費を減らすことができることを証明した。また東南

アジアでの調査研究などを通して、人類学的な見地からの老年学に関するさまざまな知見を紹介した。

各講演に対して、フロアの聴衆から多くの質問が寄せられ、シンポジウムの進行上、座長がやむを得ず質問を残して次に進む場面も見られた。講演参加者は、コーヒープレイクの時間なども使って、活発な議論を交わした。



< 座長玉腰暁子先生 >



最後に閉会の挨拶として、実行委員長を務めた当センター田平武研究所長から、開会までの経緯や今後の研究発展への期待が述べられるとともに、参加者および関係者への感謝が伝えられ、シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じた。

< 田平武研究所長挨拶 >

未筆ながら、本シンポジウムに国内外から参加された研究者、共催にご尽力いただいた長寿科学振興財団をはじめ、開催準備や当日の運営に携わったNHK 中部ブレイズの方々並びにセンター職員に心から御礼申し上げたい。シンポジウムは滞りなく進められたものの、終了間際に交通トラブルが発生し参加者の帰宅の途が危ぶまれる事態となった。しかし、関係者の迅速な対応により一人も取り残されることなく帰路を確保することができた。重ねて感謝致します。

( 文責：国立長寿医療センター研究所 疫学研究部長 下方浩史 )